

会 議 録

件 名	橋本中央中学校区地域説明会・意見交換会（第2回）
日 時	令和7年2月19日（水）午後7時00分から午後9時30分まで
場 所	教育文化会館3階 第1研修室
参加者	参加者 13名 今田教育長、田中委員、簗下委員、岡教育部長、阪口参事、 丸山教育総務課長、大谷学校教育課長、長谷川生涯学習課長、 東学校再編推進係長、東川、中山

教育長挨拶、資料説明の後、質疑応答、意見交換になりました。

なお、出席した保護者には、資料と合わせて、意見等を記入できる二次元コードを用意しました。欠席した保護者にも二次元コードにて、資料を閲覧、意見等を記入できるよう準備しました。

本説明で出された意見等は、以下のとおりです。

1－1. いろいろ説明を聞かせていただいて、その子供たちにとって、いい学校ということを考えていただいているんだとは思いますが、この説明の中では、学校規模のところに、学級規模のこの話は出てこなかったみたいなんです、第一次の答申とかでは、何人から何人が望ましいというようなことが出ていたように思います。今回そういうことについては何も説明いただいてないんですが、そこはどうなんでしょうか。

（教育長）

前回の計画の基本方針の中には書かれてありました。25名までぐらいの話だったかなと、そんなふうに思います。それで、何が今変わってるかということ、全ての小学校、中学校で35人学級が実現しております。その関係で、学級の規模というのが前より縮小しているということがあります。プラス、橋本市の取組として、昔だったら40人学級とか45人学級のクラスだった。失礼かもわかりませんが、同世代の方々が多いと思うんですが、そういう時代だったと思うんです。その頃は、知識をきちっと伝えていく、知識を増やすことがメインの授業形態だったので、そういう人数だったと思うんですけれども。今は、先ほどからの説明のような学びの転換というのが行われてくる中で、一定の少ない人数で、しかし、その中ではしっかりと学び合いができるような、そんな環境を作っていかなければならないということから、一定の数以上になってきたら、橋本市として、プラスアルファの先生を配置する中で、今求められてるような、そういう学習形態ができるようなことを対応してきています。これについても、継続して実施していきたいと思っておりますので、そここのところは保障していきたいとそんなふうに思っていることから人数というのは示していません。

1－2. 学級の人数についてもお考えいただいているということなんですね。それと、1つ疑問に思うので聞きたいんですけども、今回のこの答申の諮問というのは、例えば、学級数が少なく子供も少ないよとなっている。学校の保護者さん、またはその教員の方から、これではやっぱりやりにくいから、大きくというか、何とかして欲しいみたいな意見や要望があって出たものなんですか。

(教育委員会)

学校の保護者、地域の方、学識経験者、それから公募の市民を含めて、審議を行いまして、計9回にわたる委員会を開催させていただいて、その答申の中に、1学年2クラスが望ましいという、お考えをお示しいただきました。その経過がございます。

(教育長)

ちょっと補足させてください。その話し合いの中では、委員の皆様方から、広く意見を聞いて自分たちも考えたいということで、アンケートも実施しています。そういったことに基づいて、答申をいただいているという状況です。

1－3. アンケートも見せていただきましたが、答申も読ませていただきましたので、すごくそのアンケートの文言が、ちょっとこれやったら私も全部おっきくなった方がいいようにマルしてしまうみたい。そういうような感じはしました。例えば「児童数が少なく、運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団行動、行事の教育効果が下がること」というふうになっていますが、この下がるということについて、例えば、何か研究であったり、それから論文であったり、そういう学問的なものというものはあるのでしょうか。この質問の中に、少人数だとこれが駄目になるよみたいなことが結構あるような気がして。これを読むと、大きい方がいいんじゃないかなって、私もマルしてしまうように思うんですが「下がること」とか「できない」とかいう言葉は、何からこれは、出てきたものなのでしょうか。

(教育長)

いろんな研究、データが出ています。一番よく言われるのは、学級規模によって、その成績がどうかというような辺りのことは言われることが多いんです。少ない方がいいのか、ある一定の数がいる方がいいのか、そういう研究データはあるのかと。これは、いろんな結果が出ていて、なかなかこれといった決め手になるような研究の結果というのは出ていないのが現状です。なぜなら、それに及ぼす要因というのがたくさんありすぎて、なかなか特定しにくいっていうのは、そういうところからです。ただ、集団活動とか、そういうことについては、一定の集団を確保した方が良かったか、子供間のトラブルなんかの解消率は、やっぱり一定の集団あった方がいいとか、その生活の中でのことというのは、集団を確保していくほうがよいというような、そんな結果は出されているのはあります。

1－4. もしそういう研究であったり論文だったのがあったらぜひ、そのお名前を教えてください。いただければ私も勉強したいと思います。また、そういうものの資料という研究結果など

は、この委員さん方にお示しになられたんでしょうか。もちろん、教育委員会の方はもう読み込んでおられることと思いますが、検討委員の方々に、そういうのを見ていただいたりされましたか。

(教育委員会)

検討委員会の中では、文部科学省の適正規模・適正配置に関する手引きを資料として提示させていただいてました。文部科学省の方で、こういったことが考えられるというようなものをまとめたものは、資料として提示させていただいてます。ただ、詳細な学術的な論文結果であったり、そういったものっていうところについては、お示しはしていないというところになります。このアンケート項目としては、4つの項目で、今、問3の学校に改善して欲しいことということで、クラス数の切磋琢磨ができないことであったり、最後には特になしのところで、9つの項目について、選択肢を一旦提示しているというところなんですけれども、こちらについては検討委員会の中で議論した上で、並び順なんかも配慮しながら、誘導にならないような、そういった選択肢の並べ方みたいなところを議論しながら、小学校の保護者さんにアンケートをさせていただいたというところになります。

1－5. ちょっとそこら辺は、このアンケートを見ますと、納得しがたいところもあるかなというふうには思いますが、皆さんでそういう意見を出されたということなんですね。

(教育委員会)

参考になるかどうかちょっとわからないんですけども、そういうデータは日本でもう取っているようです。ただ、ちょっと本で読んだことがあるのは、ヘックマンというアメリカの学者が言ってるんです。ジェームズ・ヘックマン。アメリカの経済学者で、教育経済学なんかも研究してる人なんですけれども、ノーベル賞取った人で有名な方なんですけれども。学校では、一定の児童数を確保するということはどうなるかと言いましたら、普通の学力テストで計測できるものを、認知能力。計測できないものを非認知能力と規定しているようです。この非認知能力はどんなものかと言うたら、この今の説明の中にもあるんですけども、もし日常的に使う言葉で言うたら、自制心とか、それからやり抜く力とか、それから好奇心であるとか、そういうものを言うようなんです。これは、自分だけではなかなか学べない。何から学ぶかというたら、同級生であるとか、先生であるとか、地域の方々であるとか、人から獲得するものである。こういうものは、ある一定の人数が確保できての方が、いろんな考え方を学ぶことができると言われてます。これはアメリカでは、かなりのお金をかけて研究してるようです。日本ではそこまでの及んでいないんですけども、データとしてそういうのがあります。ただ、外国のデータが即日本の教育に適用できるかはちょっと、そうは言い切れないかもわかりませんが、かなり参考になるのではないかなと思います。おそらく学校は、ただ単に連結ではなくて、こういう非認知能力をいろんな人から獲得するという、そういう場でもあると。ある極端な言い方したら、人生の成功というのは、この非認知能力獲得がかなり成功に繋がる。人生の成功とは何かっていうのは、またちょっといろ

い議論あるんですけども。そういうような文献があります。なかなか我々の生活にすばっと置き換えることはできないところもあると思うんですけども、そのためにある一定の児童数を確保した方がいいと考えています。もちろん、非認知能力と認知能力は、この完全に切り離されたものではなくて、相互に関連してることは事実だと思うんですけども。そんなことが言えるだろうなと思います。

2. 今日話を聞かせていただいて感想だけ述べます。簡潔に。1点目は、この問題意識からなぜ再編統合。そこへ結論になるのかが、私は理解できませんでした。2点目は、今まで教育委員会が取り組んできたことと違和感を感じています。例えば、小学校を核に、そういう集団、共育コミュニティという言葉を使っていますけども、作ろうと。そこで地域の皆さんにご協力くださいよと言うとった教育委員会が、学文路小学校を無くします。清水小学校を無くします。恋野小学校も無くします。境原小学校も無くします。柱本小学校も無くしますと。なぜこういうことになるのかが、一生懸命10数年前から共育コミュニティで地域の力を学校へ、そのことで地域も活力をもって活性化しようという取り組みが、その路線から大きな転換がされる。このことに違和感を持っています。3点目は、今、取り組んでいる共育コミュニティ、微力ながら役に立つんやったら頑張ろうという人間から見たら、教育委員会の言葉で言う再編統合は、私は不信感持って、教育委員会に対して不信感を抱かざるをえません。感想だけですんで、私に対する反論みたいなものはいいませんので以上です。

3-1. 先ほどのお話で、それはいつ頃の文献、年代はいつごろになりますでしょうか。
(教育委員会)

2000年代の最初ぐらいかなと、ちょっと何年と言われたらはっきり出てきませんけれども、受賞したのが2000年の初めぐらいかなと、もちろんそれまでの研究があると思うんですけども。

3-2. 私も子供の発達においては、本当に人と人との関わりというのが大事だと思っていて、それはある一定の人数、この一定の人数というのがどこになるのか。これはちょっと、みんな考えることが違うと思うんですけども、私もそれは必要だと思っていました。ところが、この2000年以降のいろんな、何が影響してるかというやっぱりインターネットとかSNSですとか、そんなものかなと。それははっきりはしてませんが思うんです。大人も子供も、ものすごく自分の意見を言わなくなっているという状況があると思います。意見を交わすのは、心からそれちゃうやんとか、私はこう思うもんというようなことが言えてこそ、そういう意見のいろんな価値観の交流ということができるのであって、ただ、人数が増えたら、今の時代、それができるというふうには、とても考えられなくなったというのがここ最近のことです。これは実際に私どももいろんな相談業務であったり、そ

れから、これまでの自分の経験の中からなんですけども、大人も喧嘩をすることを嫌がります。喧嘩というのは、意見が違う人に対して、違う意見を言うということですよ。それが言えないような状況の中で、幾ら人数を増やしても、学級を増やしても、なんら人間的な関係の深まりは出ないんじゃないだろうかと。ここ数年、そんなふうに思っています。

ならば、それよりも少人数で、意見をもっと深く、闘わせられるような規模の学校、それは小学校の間にしておくことが必要なんじゃないかなとこの頃考えていて、この学級数が2つクラスあることが必要なのかというのをすごく疑問に感じております。また、一定の人数が必要ということであるならば、先ほどもありました学級の人数を、25人あたりまでは望ましいということであれば、その25人というのを基準にして作っていけば、2学級というのはある程度できるところができるんじゃないかと。これからの学校で統合するまでの間にいろんな交流をされると書いておられます。そしたら、ベースとしては小さい学校を持っておきながら、そういう交流をICTを活用するとか、いろんな便利なものも、私たちがすぐZOOM会議とかするんですけど、それでも十分意見を闘わすことはできます。今のやり方も取り入れつつ、ベースとして生活もともにする非認知能力を獲得するためのベースの学校というものは、小さくてもいいんじゃないかと。また、学年の人数が小さくても、他学年の交流、これは恋野小であるとか、学文路小であるとか、小さい学校でものすごく行われています。私も家庭教育支援の方でいくときに、縦割りの交流ができるんだなというのはよく感じます。もちろん、橋本小学校等においても縦割りはされてますけども、なんか、親密度と、それから活動のしやすさ。それは小さい学校なのかなというふうに考えたりしております。

(教育長)

いただいたご意見、それは1つの考え方として、そういったこともいえるかなと思います。言っていた中で、25人学級の話がありましたけども、これは独自で決めることはできないので、そこのところは35人学級の中で、プラスアルファ、市が支援していく形をとっていかざるをえないので、そこはしっかりとっていきたいと思います。

3-3. 実質的に、学級を2つに分けるということは、市独自でもできなくはないんですよ。クラス数はもちろん、国で決まった、県で決まった人数があるけれども、今でもTTであるとか、複数担任であるとか。

(教育長)

そういったことは、できる部分もあるんですけども。それが、ずっと継続してできるかって言うと、なかなかそこは難しさがある部分があります。学校独自で分けてるところもあります。それは、その年に配置された教員の中で、できるかできないかの判断をしていかないといけないので、ずっとそれが保障される形ではないので、市ができるところについては、しっかり、学校がやりたい形、こういう形で子供たちに教育をしたいんだということに対して、人を配置していく形で対応していきたいと、そのように思います。それと、先ほどのお

話ですが、正確に言うとはんまに 17、8 年前になるのかなと思うんですけども、国が学校支援というのをしていきませんかと言い出した頃から、橋本市も、これは大事なことだとそんなふうに捉えて、私も取り組んできました。これは本当に長い時間かかって、ようやく今の形ができてきています。一朝一夕に、その地域と学校が繋がってっていうようなことをよく言うんですけども、なかなかこれは難しいことです。けれども、粘り強く、いろんな方々に協力をいただいて、学校は本当にいろんな形で支えてもらって、学校の先生だけでなく、いろんな人が関わりながら、教育活動が行えるようになってきました。これは本当に自慢できる部分であると私も思います。ただ、再編のところとの整合はどうかという話ありましたが、再編することによって、そのエリアは、広くなることは否めません。けれども、今やってる活動というのは、やっぱり同じようにしてやっていきたいと思っておるところです。それと、学校でのいろんなバリエーションのある教育活動、そして、10 数年かけてやってきた地域と連携した形の子供の育成というのは本当に難しい部分あるんですけども、しっかりこれからも取り組んでいきたいところであり、後ろに下がっていかないように努力していきたいと思ってるところです。

4. 今、委員さんがおっしゃられたヘックマンの非認知能力ですが、ネットで調べたら I Q ではなくて、人間としてはコミュニケーション力が大事だというのは、皆さんご存じの通りやと思うんですけど、そんな感じなのかもしれません。実際わかりませんので、先ほど言われたように、基本的に何か上下とのそういうコミュニケーション能力を作る。その時に、何か地域の皆さんとのコミュニケーション力。小学校が統合されたら、地域との繋がりが、正直なくなるわけですよ。小学生の方でも 3 人いれば基本的なコミュニケーション能力がつきます。基本的には、皆さん同じ人間なのでわかってると思うんですけども、その中で、いろんなコミュニケーションつけていくべきなんですよ。例えば、自分たちだって、ちょっと上の子のことを学びます。皆さんも子供を産んだら、2 人子供いたら、下の子は上の子のことをすごく学びますよね。すごく上の子供をやるのがすごい楽しいんですよ。それが結局こう話していくうちに、非認知のコミュニケーション能力、その I Q ではない、学校でそういう能力が生まれる。だから、それは学校の生徒の人数だけではなくて、地域の人、そして親がすごく大事ですよ。基本的には、学校より家庭でいる方が長いわけですから、コミュニケーション能力を磨いていくのは、親の役目でもあるわけですよ。それは学校だけではない。学校でももちろん大切やと思うんですけども。だから、そういう小さな、より人数が少ないところでも、基本的にはそういうことがあり得るし、上下のバランス、もし少なくても、そのクラスだけではだめでも、下の子を見ることも大事ですよ。そういうことで、いろんな人と対応ができるようになるわけですよ。これから高齢化社会になっていくときに、やはり何か地元の方がいて、おじいちゃんおばあちゃんがいる、おじいちゃんおばあちゃんが、なんか来ていただけたときにちょっと声かける。こんなじいちゃんおやんと思う。それとおじいちゃんらがいてたらやはり、このおじいちゃんも一緒におやん

っていうな感じになるわけですよ。今の子供らは大体、核家族というかそんなに何世代も暮らしてないので、基本的には離れて暮らしてる。おじいちゃんがなかなか会えないんですよ。でも近所のおじいちゃんおばあちゃんがいてるわけですよ。そういう人たちとはなかなかコミュニケーション取れないんですけど、そういう中で、地元小学校があれば、そういうことはできるんです。それが統合されて1つになると、例えばここ言えば、学文路小学校・清水小学校が無くなるわけですよ。橋本小学校へスクールバス使ってバスで行くとする。わかりませんがどうするかはね、実際は。そうなってくるとそういうコミュニティ的なものがなくなっていく中で、そうなんか非認知能力は上がるもんなんですか。

(教育長)

今、言っていたことっていうのもすごくわかる部分があります。人数が少なければ、できることが限られてくるのは、先ほどお話させてもらったんですけども、そして、少ない状況の学校はどうなんだっていうのがあります。これはこれで、それぞれの学校の最善のやり方で、先生方がいろんな取組をしてくださっています。ですから、それを否定するわけでもありません。けれども、一定のもう少し規模を大きくすることによって、それ以外のクラスがあったりすることによって、子供たちの人間関係で困った時の対応であるとか、そんなことも含めて、トータル的に、そちらの方がいろんな対応がしやすい環境になるようなことを判断しているわけなんです。それぞれの学校において、今の状況、子供たちの人数において、それを最大限引き出せるような教育活動を複式の学校でもしてくれています。そこでは2つの学年が一緒になって勉強したり、それぞれ任された時間があって、自分たちで学んだりしながらやっています。こういった学びは複式の学校だけではなく、通常の人数の多い学校でも同じようにしていくことが求められてるような学びになってきてるんですよ。ですから、そういったことも含めて、部分的なところを捉えれば、それを肯定する・否定するという話になっていくんですけども、そう言ったことではなく、より幅の広い豊かな教育活動が展開できる形にしていってあげたいと、そういうような思いで考えているところです。もう一方で、クラス数が少なくなるイコール、先ほどの説明の中にもあったんですけども、先生数が少なくなります。この先生の配置というのは、国、県の基準において配置される。プラスアルファ、市で配置する部分もあるんですけども、基本は国、県の基準によって配置されるものとなります。先生方の学びもやっぱり大事です。先生方の集団ということを考えても、一定の数を確保した中で、先生方が学んでいく。それが結局は子供に帰っていくことになっていきます。そういった面からも、やっぱり一定の規模も大事だということ、それを提案させていただいてるという状況です。

5. 教育長のお話から、教育委員会が言う再編統合という結論が、教育長が学校教育課におられて、その前に推進室でおられて、一緒に橋本市の子供たちの豊かな学びができるように、地域の人の協力あったり、この発想の前は、学校教育だけでは子供たちはもう育てられへんのやと、橋本市の教育方針も作ってこられましたけども、町全体で育てるんやとい

う教育方針立ててこられたわけだ。その時の中心は地域の小学校を核にして、ここが中心で、教育長の先ほどの答弁でも地域から学校なくそうなんてこんな禁じ手、教育行政からしたら禁じ手ですよ。明治以降の近代教育の中でも、初等教育は、ここがやっぱ学びの中心で、新しい現代教育できてからでも、小学校というのは国民の学ぶ権利を保障する、根幹になる教育機関で、これをなくそうという発想は、教育長の頭の中にもその当時なかったし、今はわからんけど、ここにある学校を核に、そういった学びの集団作っていいこうよと、市民の皆さんには助けてください、協力くださいと言って、お互いに訴えてきた中で、学校なくして、100ワットの電球消して、ここの100ワットを足して、200ワットのあれ作るんよというような発想なくて、ここに100ワットがここで光輝くように、言葉はあれで誤解あったらアカンけど、小さくても光り輝く学校、子供たちの学びを保障する学校を作っていいこうっていうのが、当時からの暗黙の、そこでどういった子供たちの豊かな発達を保障できるんかと。規模を大きくするという発想は、当時はなかったし、それで橋本市教育委員会はずっときたのに、ある時に急に、こういうような発想でできたのが、私はわからない。ちょっとわからない。補足させていただきましても。先ほどちょっと答弁いただいた中から、かつてのこともご存じな方やから、その発想から小学校はほんまに教育の根幹みたいなところで、教育長の言葉で、教育というのは学びを支援することが教育なんやとおっしゃる。私もそれに同感してますけども、その一番大事な小学校を無くして、合わすんやっちゃう発想がなぜ出てくるのか。今日のこの説明では、問題意識で少子高齢化、ずんずん減っていく。だけど、規模を一定にして、子供たちの学びが保障されるわけではない。これはもう当たり前で、その時には幾つかの条件がいるわけですよ、数だけじゃなくて。今、喫緊の課題で、一番大事な課題は、ボランティアなど行かせてもらって、子供たちに寄り添える専門的職員である教職員を充実、そこプラス、それを支えるような教育条件を整えるのが、教育委員会の仕事だと思ってます。なんか再編統合ありきが前提で、後で理屈をつけたようなことをおっしゃられたのに対して、非常に違和感ちゅうか、不信感というか持つとるんで。ちょっと非常に教育委員会に関わってきた、一生懸命、微力ながら努力さしてもらった人間にとっては非常に残念で、涙が出るほど残念ですわ。

6-1. 今日はとても良い話聞かせてもらったなと思ってます。私は、この中でいうと比較的若い方なのかなと思ひまして、子供が年中と年少の子供2人います。最初、基本方針が変わる前の時点で言うと、上の子供が2年生になるタイミングで、統合というような話が出てました。変更案で言うと、小学校5年か6年のときに統合になるところかなあと思ってます。私がちょっと心配してるのは、今回見直しで、目標年度が変わってます。何かこのまま見てると、だんだん延びていくんじゃないかなというふうに正直思ってるんです。これも変わらないですかねというのがすごい心配になっているところなのと、資料18ページの説明で、西部小学校、市議会議員さんからの質問等でも載ってるそこかなと思うんですけども、文面では書いてないですけど、元あったように10年後に検討していくような

話あったと思うんです。先ほどからの皆さんの話いろいろいただいていた中で、令和5年ぐらいに検討委員さんの委員会が始まったんですかね。この橋本小学校区でいうと、令和5年に話が始まって、令和13年に合併するんですよね。8年かかっているんです。この西部小学校の再編統合を10年後に考えるのは橋本小学校区、統合した令和13年から10年経ってから考えるということですよ。令和23年度に西部小に何人いてるんですかね。資料17ページ見てもらおうと、令和7年の西部小学校は164人。令和12年で135人ということで5年で30人減っているんです。これは多いんかもしれないですけど、例えば10年では60人も減りました、令和23年西部小学校の再編統合を考える時点で、もう清水小学校より少なくないですかと思ってしまいます。僕もちょっといろいろ最初に話聞いたときには、いろんな思いがあったんで、前の会議のとき、未就学児のときに1回目は出さしてもらいました。いろんな意見も言わしてもらって、そこでもちょっと納得いかないという思いもあったんで、教育委員会の定例会にも何回か出させてもらって、いろいろお話を聞かせてもらって、勉強してもらったんですけども。ちょっと動きがやっぱ遅すぎる気がするんで。この第2期の再編統合が終わってから、はあ終わった。10年後に西部小学校考えようというんだったら、だめな気がするんです。ずっと考えといてくださいよって、今回も箱物作るのに、学文路小学校と清水小学校を橋本小学校に一気にしたらいいじゃないかと話してもらったんです。僕はちょっと、子供がまだちっちゃいで、できるだけ早く統合して欲しいという意見があったんで、そのような話してもらったところ教室数が足りない。だから作らないといけな。そんな話もあって、3年間、後ろ倒しになったっていうところもあると思うんですけど、これもう今から西部小学校のことも考えて部屋作っていかなあかんのちゃうんですか。また考えて、検討委員会開いて、方針を出してから考えてやって、子供いないっすよ、と思うのはちょっと僕の意見です。ちょっと、ずっと考えといて欲しいなと思います。あと、本当に今回、この会議出てよかったなって思うのが、未就学児の説明会は同じ年代、本当に若い親世代ばかり出て話を聞きました。でも、地域の説明会では、地域の人がどんだけ学校のこと考えてくれてるか、正直親世代あんまりわかってないんです。子供を通して何か話を聞いて、おじいちゃんが今日は来てなんかしてくれたとかは言ってくれて、そうなん良かったなっていう話はするんですけども、正直そこまで若い世代は地域と関わってないです。僕は消防団に入ってますけども、消防団に若い子に入っても誰も入ってくれないし、そんな地域の面倒くさい繋がりはいしたくないんです。今日、ここで話聞いてると、いろんなこと考えてくれて、やってくれてたんだなっていうのは、すごい思いました。本当にすごいいろんな意見持ってくれてるのも思ったんで、定例会のとき言ってくれてたと思うんですけど、いろんな人が集まって意見交換、もっとやりとり、教育委員会と地元、教育委員会と親だけのやりとりでだけで、いい方向にいかないんじゃないかなと思って、親世代であるとか地域だとか、もう双方向の意見交換をしていくのが、橋本市の教育にとっていいのかなっていうふうに思いました。とても良い話を聞かせてもらったんで、ありがとうございます。

あともう1点、どうでもいいことと言われるかもしれないんですけど、資料21ページのところで、再編統合前の学校選択についてもこの内容じゃないんですけども、資料15ページのところで統廃合と再編統合の違いを書いてくれてるじゃないですか。教育委員会の定例会ずっと黙って聞いてても思ってたんですけど、教育委員の方でも、統廃合、統廃合ってずっと言ってたんですよ。僕3回4回出て、教育長が再編です、再編ですと言い直して、教育委員会の中でも、整理するためにこの資料15ページのスライド作って、再編統合なんだよと、改めてわかるようにしてると思うんですけど、資料21ページのところで、廃校となる学校というような言葉あるんですよ。廃校でいいんですかこれって、廃校なんですか。再編統合ですよって、自分たちにも生かせるようにスライド作ってあるのに、これ本当にこのまま、これはちょっと僕は違うんじゃないかなって思ってます。しょうがないことですけど。

(教育委員会)

ちょっと前後しますが、確かに15ページの再編統合と統廃合は、1回目の説明会の時に、ごっちゃになってるところが意見交換の中であつたんで、改めて整理させていただきました。両方の学校に関わって、新しい学校を作っていきますよというところを押さえさせてもらいたいところもあつたんで、ここはあえて入れてございます。最初の方で、1回目の方針から、学校再編の橋本中央中学校区、また延びるんちゃうかっていう話ちょっとあつたと思うんですけど、今はまだ市としての計画になってないんで、確実なこと言えないんですけど、やはり教育委員会として一定のこう考えていますという方針を出さしていただかないと議論もできません。やはり保護者さんと意見交換させてもらったときに、学校で在学しているときに2回も負担かかるのが、非常に大きなところもありまして、今回、年度と対象校を見直した1つの要因になっております。西部小学校のことを、10年後ということで23年度になるんじゃないかっていう話だったんですけど。確かに当初の基本方針のところには、先に学文路小学校と清水小学校を統廃合進めた後、西部小学校と橋本小学校の学校再編を検討します。なお、その時期は統合から概ね10年としてあるんですけど、ここはちょっと、2校から3校に変わりますので、プラスアルファ、単純に23にするわけじゃなくて、西部小学校の児童数の推移は、当然ですけども意識して、この10年間を進める形になります。

6-2. この10年というのは。

(教育委員会)

前作ったのが平成26年で、今、見直しにかかるんで実際令和7年になるんですけど、この10年間スパンという形で考えていきたいと思ってます。

6-3. 決まっていないというか、教育委員会内でも統一したものが無さそうなので、何か共通のものがあつた上で話してるっていう感じじゃないように感じたんで、今の時点で、橋本小学校の増築する分、西部小学校の入る部屋数も考えておかないと、また設計からす

るんですか。遅すぎると思うんですが。

(教育委員会)

児童生徒数の推計を出しているんですけども、それについては、10年後ということで、概ね令和17年度ごろに、改めてまた児童数の推計を出すことを考えています。それで10年経つと教育環境自体も今で言うタブレットが出てきたり、いろんな学びの形が変わったり、国の学習指導要領が小学校が令和2年度、中学校は3年度に改定されていますが、新しく指導要領の見直しが始まってるというようなこともあるかもしれないので、いろんな学習環境が10年後に変わってくる可能性があります。そういった10年スパンで、児童生徒数の見直しも行いますし、またその時の教育環境も踏まえた上で、2期方針のまま進んでいくのか、また、それとも2期方針を見直して、また新しい考えを再検討していくのかを、定期的に児童数の状況であったり、教育環境を見ながら検討していくところを考えているところです。それと、資料21ページの表現です。廃校となる学校と書いてるところはおかしいんじゃないかというところで、ここについては正確に言うと、例えば2つの学校が再編統合されると、どちらも廃校になって、新しい学校というふうなことになるんで、表現がすごく難しく、正確に書くと、学校の場所が変わる児童のような表現になってしまうんですけども、説明の表上に、その長々した文章を書くと、逆に見づらい資料になってしまうので、正確なところは上の文章に書いてるんですけども、下の例えばの表では、廃校となる学校というところをかなり略してしまっているんで、これも補足説明しないとわからないんですけども、よりわかりやすさを優先してこの表にしているっていうようなところなんです。

6-4. それはスムーズに進めるためには、スライドを1ページ割いて説明してるのに、それで廃校というのは無いですよ。僕やったら紙だけ、全部ちゃんと話を聞いたら、「うんうん」となるかもしれないですけども、それでも「うん？」となったんで今日は。これはちょっと、この絵は僕は清水小と橋本小で想像したんですけども、そうか、清水小で、今、2歳ぐらいの子が選べるんだな、橋本小へ行けるんだな、やっぱり清水小は廃校なんだなと思うんで、どうでもいい話なんですけど、地域の人を気持ちを逆なでしないために、廃校じゃないんですと言ってるのに、廃校と出します？って僕は思うんで、それでスムーズに進めていただけるならいいです、それは。ちょっとまあ、すごい思ったんですけど、今言うべき話じゃないかもしれないですけど、教育委員の人。この話は誰が決めてるんですか。教育委員会の人が決めて、何の話もせずに、教育委員会の定例会で出てきました。教育委員の4人は、初めてその場で資料を見ましたみたいな感じで話しされてたように、僕聞いてたんですけど。市の職員が作ったものを定例会で始めてみて、その場で教育委員の4人の人は意見を話して、というようなことで進めてるんですか。

(教育委員会)

資料につきましては、事前にお送り出さしていただいて、ご覧いただいた上で、会議に来

ていただいてるという形になります。

(教育長)

会議の場面では、そういうふうなところだけ切り取って見られるんですけども、私も含めて5人で事前に資料を見ます。そして勉強会もします。そこでの勉強会をした上で、今度こういったところで議論しようかと、いうようなところもしっかり時間かけて取り組んでおるところは、なかなか見えない部分かも知れませんが、私たちとしては、その時だけではなく、しっかり細部にわたって検討した上で、教育委員会議の中で議論しているという状況ですので、ご理解いただきたいと思います。

7－1. 確認なんですけれども、橋本小学校は避難場所に指定されてるんですか。

(教育委員会)

橋本小学校ではなくて、橋本中央中学校が地震のときの避難所になっています。

7－2. そうなれば、そういう指定をされていない小学校に、なぜ統合するのか。ちょっとこれ疑問なんですけども。

(教育委員会)

橋本中央中学校が避難所に指定されていて、敷地も同じになりますので、もし橋本中央中学校だけで、なかなか収容できないときには、一体的に運用するようなことを想定していると聞いております。

7－3. それで、統合されて人数が増えてくる中で、事態が発生したときにはちゃんとできるんですか。現在、学文路小学校と清水小学校は避難場所に指定されてます。それが変わって、橋本小学校に統合された場合に、それが果たして機能するのでしょうか。一番大変なことじゃないかなと感じたんですけどね。そういうところで、こういう話も進められてきたのかなと思います。

(教育委員会)

再編されて、子供たちが集まってきた場合になりますけども、新しくできる学校という形で避難計画であるとか、そういったものを作る形になります。その中で、どうやって安全避難していくかというのとも考えながら、どういった方法がいいのかというのを作っていく形になります。避難所としては、学文路と清水は、今のところが残る形になっていくかと思います。

7－4. 危険なところで、小学校というのは避難所に指定されていないと思うんですけど。ちょうど紀の川の堤防の北側にあるという、そういう立地条件の中で、指定されていないところに、子供たちを集約して集めるのは大変じゃないかなと感じるんですけどね。統合という形では仕方ないなということもあるんですけども、そういうところに、子供た

ちを集めてどうのこうのという。これは次元の違う話になるんじゃないかなと思います。

(教育委員会)

確かに、川の近くでの形になるんですけども、そういった中で、いかに早く回避できるかという計画も立てていきますので、そういった中で対応していきたいと思っています。

7-5. それと、川沿いの堤防の道を通る度にいつも感じるんですが、スーパーに買い物に行くとき、学童の子供たちがたくさん残っておられると。これが2つの学校から集まってきて、それがもっともっと増えるという状況の中で、先ほどから言うてる危機管理的なところの問題は発生してくるんじゃないかと感じます。これはまだ全然、書面の中には載ってなかったように思うんで。そこら辺をもうちょっと深く考えて欲しいと思います。

(教育委員会)

学童の方につきましても、一緒にするのか、そのままにするのか、そういったこともこれから議論するところになりますので、また、安全に移行できるような形で話ししていきたいと思っています。

8. 先ほど、避難場所についての話がありましたが、学文路小学校と清水小学校が避難場所になってます。私の近くの柱本小学校も避難場所になってます。でも、すべて廃校になる。今は小学校やってるから廃校になっても、体育館使うと思うんです。体育館は使ってるので大丈夫。でも、これが使わなくなったときにどうやって管理するかですよ。家なんて、普通の家でも1年間開けてなかったら、カビ生えておられないです。だから、基本的に体育館に住民の方が避難していくときに、きちんと避難できる場所に確保していけるのか。小学校なくなったらですよ。廃校になったら、そういうこともすべて入った上で、この計画は必要だと思うんです。実際、この適正化計画の平成27年度文科省の案からいくと、基本的に住民の方も含めて協議しないといけないということになってました。先ほどの方がおっしゃったように、小学校がまず核になって、そこからっていう話が、今そうだったっていう話に、どういう経路かわからないんですが、統廃合したら、それだけの行政の費用が下がるだろうという話なんですよ。なのに、今回は、学文路小学校と清水小学校でしょ。橋本小学校へ統合するのに部屋が足りないから、改修や増築するってことですよ。そうやって市税が使われる訳わけですよ。どんな増築するかわかりませんが、増築しないといけない。先ほどおっしゃったように、小学校へそれだけの人数がいつてる中、そういう災害が起きたときに対処しないといけないというんやったら、それなりの設備も必要になってくると思うんですね。だから、そこから逃げられる場所はあるのかということですよ。もしかしたら、この橋本の市役所が一番近いのかもしれませんが。あそこの堤防あって、あそこの落差すごいですよ。あれはもう天井川ですからね。だんだんと堤防を埋めていったら、あんなふうに高くなっていったという話なんですけど。だからあれは決壊しないとは。確かに紀の川なんで、そういう可能性は低いかもしれませんが、他の学文路小とかは増水してる

わけですね。そういう何か危険性もある。実際に学文路小、清水小や柱本小のように廃校するところは、いざというときの避難場所になるわけですよ。もちろん川だけじゃありません。実際、今は地震、特に南海トラフ、この場所は南海トラフに入ってますけど、基本的にはいつ都市直下型の地震がどこに起きても不思議じゃないんですよ。何かこう、予想されてるところとは違うところばかり地震になってるんで、もしかしたら橋本市に地震が来ないとは誰も言い切れません。もう神のみぞ知るです。わからないです。その時に、きちんとそうやって避難できるのか。住民の命を守れるのか。場所はあるのか。そういうことも含めた上で、学校の統廃合を考えるべきじゃないかなと。先ほどの話から考えますという話なんですけど。それは、生徒だけのことじゃないです。住民の方のこともやはり考えないといけないと思いますが、そこら辺はどう思われますか。

(教育委員会)

今は2期方針ということで学校再編の案を説明させてもらってるんですけど、例えば体育館、学校が再編されて、別の学校に移ったとしても、その施設の避難所を同時になくすというのではございません。災害が起こったときの一時避難という形で、避難所指定しているところは、施設としては無くさない。学校としては再編されますけども。そういう考え方が基本になると思います。

9-1. 僕が言ったのは違うんですよ。そういう場所に、なぜ統合するんだということを言ってるんです。こういう危険、避難場所にもできないようなところになぜ統合するのかっていう。

(教育委員会)

避難指定は同一敷地の中学校の体育館を指定されていますので、そこは1つの指定という形になっているのが実情です。指定されていないところに持っていくということではないです。

9-2. それは考えてもらわないといけない。人間の生命の根幹に関わる問題だから。教育も大事かもわからんけれども、まず生命があつての話だから、そこら辺をもっともっと深く考えて、この再編の問題を進めて欲しいと思います。

(教育委員会)

市の危機管理室と協議していききたいと思います。

10-1. まず、この再編について、進め方にとても違和感を持っています。さっきからも保護者さんの意見、地域の意見、私は運営協議会の委員ですので、保護者さんの説明会に見学させていただきたいというお願いをしたんです。そうすると、それだめですと言われました。運営協議会委員として、保護者さんがどんなふうに考えておられるのか聞きたいと。決して意見を言うというつもりはなかったです。見学をしたいと言っただけですが、駄目

ですと断られました。また、別の学校の運営協議会委員の方は、実際にその場に行って、見学させて欲しいと言ったのに駄目です。その場で門前払いを食らったと聞いています。

多様な意見を聞いて物事を進めるというときに、どうしてそのような進め方をされるのかとすごく疑問に思いました。今、保護者さんが、地域の方はそんなこと考えてるんやっていうふうに言ってくださったように、もっと、地域として考えていく機会を作るべきなんではないかと思います。保護者さんは、やっぱり避難のこととかそんなことあったんやと思われるでしょうし、私たち地域のものは、地域のことばかりじゃなくて、今の子供さんの現状を知って考えないといけないということもあります。そういう話が地域で全然せずに、いきなりここで統合ですと言われたことにものすごく違和感があって、まずはその該当される地域のみんなが集まって、これやっぱり清水小は小さいけど、どう。橋本小やったらでも場所ないで。そんな話をまずした上で、じゃあ再編するかということに、なぜ持っていけないのかなと。地域ごとの委員さんとおっしゃいます、検討委員会の委員さんとおっしゃいますが、やっぱり地域全部が入ってるわけではないですよ。その地域の特徴のことを必ずしも知っておられる方が入ってるというわけでもないと思います。まずは、各地域で自分たちの学校をどうしたらいいという話をして、その上で2学級が大事という意見もあるよねとか。そういういろんな話をできる場をまず作っていただきたいと思うんですが。とにかく再編統合するんや、そこから後のことは後で考えてというようなやり方はものすごく乱暴のように思います。それはいかがでしょうか。

(教育委員会)

ちょっと乱暴というイメージ持たれたとはショックです。保護者さん、それから地域の方々、これから小学校に子供預ける世代の未就学の保護者の方々と、皆さん一緒にしてしまったら、言いたいことも言えないところもあるしという意見もあったんで分けさせていただきました。この意見交換の場は、こういう変更が決まってからも申し上げるんじゃなく、こういうふうに変更を考えてますということに対する、一歩前で意見交換させてもらってるんで、決して強引に再編を押し進めているのではなく、教育委員会は子供たちを考えて、こういう再編案を考えてますというのを聞いてもらって、意見交換させてもらっていると思ってます。だから進め方に関しては、いろんな捉え方があるかと思うんですけど、今のこの場を私たちは貴重にしたいと思っています。

10-2. それは、あまり成功してないと思います。この人数について参加者の人数については、どのように思われますか。これで、意見交換が本当にできたのかと。

(教育委員会)

今日は空席がちょっと目立ってますけども、参加人数が少ないから、多いからという形で、そこで少ないから汲み取れないというふうに思うことはないです。皆様からいただいた意見は、大人数であっても少人数であっても、いただいた意見なので、そうは考えません。

10-3. とても矛盾があると思います。一定の人数が以上はいないと、切磋琢磨、意見の交換はできないというふうに先ほどおっしゃったと思うんです。一定の人数とは、この人数なんですか。全部の家庭の何割来てますか。この少ない人数で、発言は3人か4人がしてて、これで本当に地域の説明、理解を得られたというふうになるんでしょうか。

(教育委員会)

確かに参加者という面で見ればですけども、広報や開催のお知らせをご案内をさせていただいているところなんですけども、なかなか、たくさんの方、そんな何百人とかという話にはならないんですけども、今日、来ていただいた方で、貴重なご意見いただけてますんで、それを酌み取りながら考えていきたいと思っています。参加者の多い少ないはもちろんあるんですけども、こちらとしてはできる限りの広報させていただいて、ご案内をさせていただいたという中での参加者かなと思っていますので、ご理解をお願いいたします。

10-4. 汲み取るということは、もっとたくさんの意見が交わされるような機会を設けていただけるということでしょうか。

(教育委員会)

最終的にはパブリックコメントとかもさせていただく形になりますので、そういった中でもご意見を寄せていただければと思います。

10-5. さっきから言ってんのは一方通行の意見ではなく、こうして直に話すことで、例えば、こういう意見があるんだと言っていただきましたよね。やっぱり、立場が違うからそういう意見があるんだと思うんです。そのパブリックコメントで一方的に言うだけで、「はい、それはできません」と大体返ってくるんですけど、それだけなのものですよ。もう1つ言いますと、見守りとかいうとで、何か運営協議会委員と一緒に見守りをやりますと書いてあるんですけど、それやりますと言われたって、運営協議会委員はどう考えてるのかは、話し合いしないとわからないですよ。例えば、橋本小の運営協議会委員は、そんなん学文路の子ら来たって知らんで、というふうになるかもしれないです。清水小の運営協議会委員が、そこまでは見れないってなるかもしれないです。ならなかったらいいですよ。でも、なるかもしれないという、その協議の場自体が全然ないので、わからないまま、何だかどんどん進んでいってると思います。しかも、橋本小学校区は、これは先ほども言われましたけど1回目の説明会ですから、ここで終わって、計画で作りますというのは、それこそやっぱり乱暴なように思いますが、どうでしょう。

(教育委員会)

乱暴と捉えられるとつらいです。こういった地域説明会を中学校区別にさせてもらっております。他の地域も参加できるようにさせてもらってあるので、限定の方だけに、個別にお知らせするわけじゃなく、複数回、開催させてもらってあります。なので、一定の方針を教育委員会が示さないと、やはり議論はできないと思ったので、今日はこの場で、1回目の

変更案を中心に説明させてもらってる次第です。当然、運営協議会の方に、こんな知らんと言われることのないように、私たちとしては取り組んでいきます。そういった意識はございますので、そんなこと言わんといて欲しいです。

10-6. 運営協議会委員が自主的に、そうしたらこうしようという場合は、必要なんじゃないかと。その地域の人も集まって、そこからボトムアップする、考える場というのを作っていかないと。以前、各学校区で地域の方々が集まっていろんな紹介をして、自分たちの子供のことを考える会とかを何年前でしたか、されてましたよね。そういうのも今はなく、いきなり再編統合。子供の人数が足りない。何か、もっと地域で話し合う機会を持つといたらよかったのにと、何回も同じこと言ってるんです。

11. 意見をまとめるようなことと言って悪いけど、もっとフランクに話し合うような場があったらええやないかと言うご提案をされました。防災という観点から、もうちょっと考えてよという発言をされました。そういういろんな発言にあったなかで、機械的に同じ形にする必要ないけども、やっぱり必要なことで地域から要望が出てきたら、教育委員会は説明しますとか、答えを言うてほしい。これで形式的に終わりましたというんじゃないくて、地域からいろいろ要望出たり、個々の中で要望出てきたことに対して、柔軟に対応したらええやんと思うんでね。今後、小学校というのは、その単なる学校というだけじゃなくて、地域の拠点として大事な施設として、橋本市としては位置付けられとるから、そういう関係者を含めて、必要があれば、必要な要望があったら、教育委員会が受けたらええんやから。何も逃げ隠れする必要ないんだから。そういうこと違うのかなと思うんやけども。

(教育委員会)

今、方針を固めているような段階で説明をさせていただいておるんですが、これから方針が固まり、計画になっていく段階で、折を見て説明会をまた開いていく形になっていくと思いますんで、その中でいろいろご意見いただければと思います。

12-1. 原田地区に住んでるんですけれども、小学校が旧の小学校から移転するときに、その経緯はわからないんですけれども、当時の保護者がバスは要らないと言ったそうなんです。けれども、原田区は、そのバス通学区の範囲にあるというふうに聞いているので、今このスクールバスの話も多分出るだろうなと思ってきました。統廃合をするとしても、そのあとのケアがすごく大事で、今年運動公園のプールのほうから通学している新1年生の子供さんがおまして、私は民生委員で、入学当時の子供の下校のお手伝いをさしてもらってボランティアをさせてもらってました。もうすごく酷だなと思ったんですよ。この距離を歩かせるんやなど。送り迎えしてもらえるお子さんは恵まれていいんですけれども、いろんなお子さんもいらっしゃるんで、酷暑のこの暑い夏の8月27日ぐらいから、次の学期が始まったと思うんです。そのとき、汗だくで顔真っ赤になって、帽子も汗でぬれてしまっ

て、もうすごくかわいそうに思いました。こんなに歩かせるのは、かわいそうやって思いました。この機会に、その原田区や妻区のお子さんの通学路の検討といいますか、そこをすくいとっていただきたいなと思うんです。バス通学について、保護者がいないと言ったことも知らなかったからですけれども、やっぱり皆さんいろんなことを知らないからそのまま進んでしまうと思うんです。この資料 28 ページに書いてるファミリー層の転入促進なんて無理なんです。そんな学校遠かったら、絶対、新しく入居してこられる若い世代の方は多分いらっしやらないと思うし、小学校がなくなってくる清水小とか学文路小とかも、転入が多分なくなっていくであろう、その地域は終わっていくであろうというふうな予想もつきます。なんかすごくこれ大事な転換期だと思うので、その乱暴とかいう言葉もありましたけれども、丁寧にみんなで考えていく。地域の宝をなくしていくという、文化財をなくしていくということですからね。それに橋本小学校、内の孫も通ってましたけれども、私もそれで送り迎えしました。校歌もなくなる、制服もなくなるという歴史が、そこで途絶えるという話にもなりますので、やっぱり地域の知らない人もたくさんおられると思うので、丁寧な議論というのか、そういうのを重ねてもらってね。それから区長会とかもありますし、その辺でも十分議論をしていただいて、やっぱり進めていく、大事な大事な問題ではないかと思うので、スクールバスの件からちょっと長い話になりましたけれども、検討よろしくお願ひしたいと思います。

(教育委員会)

スクールバスの件なんですけども、今回の資料の中で距離を 2 キロ程度に緩和しますという形を示させていただいたんです。これは再編に伴って、学校が遠くなってしまう子供たちが対象になってますんで、もともと通学の条件が変わらないところというのは、このスクールバスの対象にはならない形になります。なおかつ国の方の基準がございまして、基準となるのか 4 キロなんです。4 キロを超えたら、こういったことをスクールバスとか乗せてもいいよっていう形になってるんですけども、それを再編に合わせて基準を緩和し、学校が遠くなる、通学条件の負担が増える子供たちに向けて、こういった緩和をしています。仮に橋本小学校となった場合には、今おっしゃられた地域の方たちは同じ学校になりますので、ここの部分については、このスクールバスを新たに走らせるということは、なかなかできません。スクールバスを走らせるという状況にはできないことになっておりますので、すいませんけどもご理解をお願いします。

13-1. それは違うだろう。今、言うてはったんは、前からスクールバスの断りがあるて、今は大変だからこれを改善していく方向に進めてくださいというふうに言ってはるんや。それを今、駄目だって言うたらおかしいですよ。違いますか。

12-2. そうです。この機会に漏れてしまった子たちをすくい上げていただきたいなと思って議題に上げたんですけども。

13-2. 回答は検討しますという答で、返す方がいいんじゃないですか。

(教育委員会)

どんな経緯があったのか、かなり前のことだと思いますので確認させていただく形になるかと思います。

12-3. 少子化で子供に力を入れる、地域の宝ということで育てていくという観点からしたら、遠い距離を歩かせるのは、どうかなと思います。

13-3. どこ歩いてるか知ってはいますか。見たことがあるんです、インターの側道で、橋梁のところに上がってくる道路があるんでしょう。あれを越えて子供たち歩いてるんですよ。そういう問題もくみ上げて、一緒に考えていってあげて欲しいんです。そこら辺やっぱり現場を知らない職員さんは多いと思います。だから、机上の中で、いろいろと考えていただいても、現場知らなかったら前に進まないと思うんですよ。よろしくお願ひしたいと思っています。

12-4. その当時の保護者等がやりとりで「もうウチはいらんです」みたいになって、その話は終わってしまったというふうに聞いているんですけども、そのところも確かではないので、その辺の確認も改めてしていただいて、統廃合ということで、片方は2キロ位以上であればバスに乗れる、2キロ以上であっても、もう済んでることだから乗れないはと思います。

14. 私としては、そのようなことをみんなでしゃべりたいなと思ってるんです。考えてくださいって、別に責めてるわけではないので、何々してください、頑張ってくださいというのではなく、今のような意見があるんだねって。じゃ、それをどういうふうにしたらいいか。それで、してもらわなアカンことは、これはして欲しいと要望しようよとか。いや、もっと別の解決法があるんちゃうとか、そんなことをまずは地域で話してから、その再編統合ということに持って行っていただけないのかなと思っています。

15. 今日もちよっともう疑問というか、そんな流れなのかなと思うのが、最初は統廃合の小学校の説明から始まりました。その地域が始まりました。次に統合する場所を中心に話をするんですよ。ただ統合するところというのは別に、自分ところは小学校なくならないんで、基本的には大丈夫なんですよ。統合されるとこは事情が違うわけですよ。もうこれ聞いたらたまたまそうですと言われたらどうしようもないんですけど。ただそれが、令和7年の2月、3月か4月までにがあって、パブリックコメントを出して、7年12月にこの決定を出しますというスケジュール。要するに最後を決めた上で、これが行われているだけのようなことしか思われないんですよ。何か今、もう1つ何か話しあげて欲しいって、多

分そういうことはないのかなと思ってしまいます。ここで、もしあれば、まだ教育委員会には話し合う意図があるんだなと思うんですが、それが無いということは、基本的にそのパブリックコメントを出すにせよ、それはあるだけであって、基本的に12月にその計画を伝えたいがために、そのためにこれがあるだけであると、その内容はもしかしたらいろいろ変わるかもしれませんが、そういうような感じに思えるのですが。そこら辺は違うのですか。

(教育委員会)

確かに計画を定める目標値としては持っています。令和7年12月以降ということまでまだ予定と書かせてもらってあるんですけど、まずその教育委員会の2期方針の変更を決定させてもらい、今度それを市としての計画に持っていくのに、最短目標で今年の12月というのは確かに持っています。ただ、当然逆算して、こういった説明会は形式的なものをやるわけじゃないんです。そこはご理解いただきたいんです。やはり、一方的な説明会で終わるだけでなく意見交換させてもらい、皆様の意見をお聞かせいただいています。決して、形だけみたいなことはありません。

16. みんなの意見を聞いていて思い出したんですけど、最初は広報誌に、この再編計画が乗ったとき、もう1年半ぐらい前ですかね。その時にちょっと市長に手紙書かせてもらったという話を前にさせてもらったと思うんですけど、やっぱそこに尽きるのかなど。いろんなことは、1ページ半ぐらいにかけて、目指す子供像ということは書いてあって、再編案について、この学校は再編の対象ですよというのはQRコード1つ貼ってあって、僕そんなないやろうというのを市長に手紙書かしてもらい、その話もさせてもらったんですけど、やっぱり市民全員巻き込んで話するのが最初から足りなかったんじゃないかと改めて思ったんです。僕としては、子供が小学校1年に入るときに、男の子2人と女の3人かな、清水小学校。3人か4人ぐらい。もっと多くの子供のクラスで勉強させてあげたいなと本当に思ってるんです。クラスの子だけで何遊びできるんって。上の学年とか下の学年とか入ってくれば、いろんな繋がりがあるんで、サッカーもしてるのも見るんですけども、男2人ですよ。女3人ですよ。それってどうなんという思いあるんで、本当に頑張って進めて欲しいんです。もう地域の方の声もすごいよくわかるんです。わかるんですけど、親としたら、そんな中でこんな話が出てその子が転校していっちゃって、男1人になったらどうしようかなとかいろいろ考えるんですよ。本当に、この再編対象になった地域に転入してくる人減るのかなとかと思ったら、頑張って欲しいんです。なんですけど、やっぱ進め方、そこにちょっともう1回考え直さんと、これずっとこんな意見みんなくすぶった思いを出し続けて、これで地域の方は協力してくれへんと言われたら、子供悲しいなと思う。僕からすれば、これで地域との繋がりが、小学校との繋がりがなくなると言われたのを聞いたときに、いやなんでやねんて、頑張ってとか今までの繋がりあるんやから。もっとそこ見たって欲しいなという思いもあるんですけど、でも地域の方は、いやいやそんな一方的にスパッと行

かれたら、そんなやる気なくなるよって、なってるわけじゃないですか。だから、僕は頑張
って欲しい。だから僕の意見で言うと、ちゃんとみんなのガス抜きした上で、ちゃんと話ま
とめて進めて欲しいんですよ。じゃないと、いやもうやめましたわ、こんな民生委員とか、
地域のなんか共育コミュニティとかもやってられないですわと。そうなったら、今までや
ってきた10何年何なんすか。だからやっぱり、市を巻き込んで、市民全員を巻き込んで、
みんなも問題意識として巻き込んでいかなあかんと思います。市長からの手紙はご迷惑を
かけ、ご不便をおかけしましてと。なんやそれ、何言うてきとんねんと僕はほんまに思いま
した。やっぱり、ちゃんとその時、全員の目に触れて、もっと最初のうちにみんなも思った
ことを言っていれば、ここまでならなかったんちゃいます。もう何回、こんな意見聞いてるん
ですかというぐらい、みんなの意見聞いて、第3回の地域説明会しても、多分また同じ意見
出ますよ。このままやったら、ちゃんと進めてください。本当に。もう僕の子、中学生にな
っちゃいます。まだ年中さんなんでお願ひします。

(教育委員会)

進め方につきましては、ほんまに丁寧にさせていただくところは私たちもあるんです。そ
こだけはわかっていただきたいと思います。広報の件につきましては、いろいろ原稿等の時
期もあって、ああいう形になって申し訳なかったんですけども。特集という形でちょっと4
ページ組ませてもらったんですけど。再編のページは確かにそういった状況になってしま
いました。

17. 私も4回ぐらい説明会出させてもらったんですけど、基本的には出席人数少ないで
す。発言も少ないです。でもね、これサイレントマジョリティがいっぱいおるんです。基本
的に何かこう意見言うんじゃなくて、でもやはり無くしたくないとかという気持ちがある。
だったら来いよって話なんですけど。でも、それももう仕方がないと。こんなふうに出され
てる限りは潰れるんだろうと思ってるわけですよ。でも、私がここに来てんのは、この12
月に出るかもしれない。もう多分出るだろうと思っていながらも一縷の思いがあるんです。
もしかしたら違うようになるかもしれない。今、そんなふうな感じで、統合の話があるかも
しれないけども、それがどっかでひっくり返らないかなと思ってきてるんです。今日も実
は残業あったのもう止めて来ました。もうこれしか出られないと思ったんで。でも、それ
を言うだけで、そういうことが伝わったらいいなと思ってきてるんですね。ただ別に何かそ
の、息子も小学校6年生なんで中学校に行きます。基本的には、子供いてないんで関係ない
んですよ。ここに来てる地元の方や、同じような方もいますけども、基本的に孫さんとか
関係あるかもしれませんが、実際、子供さんとかは関係ないですよ、地域の方はね。でも、
それでもやはり、その小学校とかがあるというのは、やっぱり中心にあるんですよ。いろ
んな防災とかそこら辺でもね、子供とかがいてるだけでも中心になるんですよ。やっぱりそ
ういうことを思ってるからこそ来てるっていうことを、やはり考えていただいたらありが
たいと思います。

18. 小学校3年生と6年生に娘がいます。3年生も6年生も複式学級で、3年生の子は下の2年生と複式学級。しかも3年生は男の子1人で女の子6人、でも大丈夫です。なんか女子に揉まれてすごい強くなってるので。それはそれでいいかなとは思いますが。子供に行く前にどこ行くのと聞かれたんで、ちょっと学校再編成の話で、小学校なくなるかもしれないんだよねと。それは寂しいけど、でも統合して友達増えるのはいいと思うよと言うて、そうだねって。でも、すごい重い会議だからあんまり行きたくないんだよねと言ったら、お母さん、わかるよ。私も学校行きたくないときあるから頑張って行っておいでって言われたんです。だから子供は子供で、たくさんいろいろ考えてることがあるので、こういう会議を親が行っているっていうのを知るだけでも、子供って、ああ、うちのことをちゃんと考えてくれてるんだなってのがわかるので、やっぱり学校区ごとで、最初、運動会の後に多分説明会してくださったと思うんですよね。何か抱き合わせで、親がたくさん集まるときに、保護者の人と地域の人と共育コミュニティとかみんな集まる機会があるときにするのはいいんじゃないかなと。そこにもしかしたら子供もいたりして、6年生ぐらいになってくると意見も言えると思うので。またそういう子供の意見も聞いてあげたりしたら、地域ぐるみでやってるんだなっていうのがあるかなと思います。

やっぱり複式は本当に大変だなあとって、下の子は上の学年の複式だから、上の子の負担は大きいなと思って、複式じゃなくて、やっぱり1学級1担任にして欲しいという気持ちがあるので統合するのはいいことなのかなあとも思うし、地域のことを考えたら、やっぱり学校が無くなるはつらいなという、すごく難しい、どうなんだろうという思いでいつもいるので、こういう機会でもた皆さんの意見聞けてとてもよかったなって思います。ありがとうございます。

19-1. 前回の答申も読ましてもらい、思ってたことなんですけど、子供の発達って、徐々に人間関係が広がっていく。まずは、親子で密接に関わる過程。今こども園になって、すごい大きくなったのはとても残念なんですけど、やっぱり子供の世界って、だんだんに広がっていくということを思いますと、この統合再編を進めていくと、1小学校1中学校というのがかなり多くなってくるんじゃないかと思うんです。その広がりということについては、前回の答申ではそれが大事だと書いてありましたが、いかが思われますか。

(教育長)

子供の発達を考えたときに、基本は家族からスタートします。お父さんお母さんと初めて出会うんですよね。そこから、おじいちゃんおばあちゃんと出会ったり、近所の人と出会ったり、集団を形成する。こども園とか、そういう就学前のところへ行って、学ぶようになりますよね。その次、小学校へということで、社会的には絶対大きくなっていくということが大事だと思います。ただ、どの程度で大きくなっていくかということについては、どんな環境で、子供たちを学していくかという中身とも関わってくるのかなと思います。ただ、今、言ってくれたみたいに、こども園は、まあまあ人数がいて、学べる環境になってきてますよ

ね。小学校に入ったらそれが下がる、そこが今ちょっと、順々に増えていくというところが違うところかなと思います。せっかく一緒やったのに小学校にいつて分かれて、また中学校で一緒になって、そういうようなことになってきてるのかなと思います。やっぱり、子供の発達から考えたら、順番にというところは必要なことだと思いますけれども、それが歪になってるところはあかんのかって言ったら、大勢集まっていたとしても、その中でどういう集団を作って子供に学ぶ環境を作るか、というところが大事なところかなとは思いますが、基本的にはそうだと思います。

19-2. 最後に、さっきありました教育委員会の勉強会のことなんですけど、何回も定例会へ行って聞いてたともおっしゃいましたが、何て言うのかな、その勉強会で本当の話が出てるんちゃうかなというふうに思うんです。それはなぜ、それを教育委員会として公開されないのかなあって。そこでの話し合いでは、すごくいろんなことをしゃべっておられて、もう言ったから納得しちゃって定例会では割合なんかこう、さらっとみたいなのを見られて、何か話してるのという疑問を持たれたんじゃないかなと思うんです。教育委員会委員さんがすごく話されたことって、私らが言ってることを話してくださってるかもしれないので、そこをきちっと公開していただければ、もうちょっとスムーズというか、せっかく聞きに行かれても、ああそうかって思ってもらえるような教育委員会になるんじゃないかなと思います。また、さっきも言われたように、どうせ教育委員会に言っても聞いてくれへんやんという声がちらほらというか、結構あります。この説明会に結局長てないのも、もう言ったって決まっとんやろ。幾らそちらが決まってるんです、と言ったって、さっきの廃校になる学校しかだめですって言っちゃうし。本当に決まってるって意見を聞こうとしてんのかということが、やっぱり市民に伝わってないんじゃないかだと思います。言うたって聞いてくれへんやん、それでは、今後の学校づくりのときに上手く回らないんじゃないかと。私ら運営協議会委員は、どうしたらいい学校になるって話合おうよって、熟議といっぱい言われてるのに、そういうふうに、言ったって聞いてくれへんやんみたいなこと言われると。とか、そういうふうに思われていると、何もかもがうまくいかないんじゃないかなっていう気がして。ちょっとわからなくなっただけで終わります。

(教育委員会)

勉強会なんですけども、こちらは非公開というか、非公式というか、定例会のような公開するものではありませんので、ちょっと公開ができないのでご理解をお願いします。

19-3. 公開できないと考えているのかも、すれ違いの原因の一つだと思います。

説明会に出席していただいた地域の皆様から意見書に記入いただいた意見、並びに欠席された方から提出いただいた意見の内容です。

20. (二次元コード)

①個人情報の関係で、「説明会・意見交換会」はスマホ等で録音しないでください。教育委員会は、録音します。自分がどう伝えたか確認したいと思います。ダメなのでしょうか？

②天候もありましたが、市民が結果は決まっていると思っていたり、関心が低かったりする人が多いのではと思いました。個人的な感覚ですが、言い訳に「説明会・意見交換会」が開かれている感覚になります。

③参加者の意見を聞いていて、聞いてみてわかるや、気づかなかったことに気づくや、幅広く考えられると思いました。やはり、たくさんの人が聞いて考える必要があり、たくさんの人の意見を集める工夫が大切だと思います。

④私は、小学校のうちは、地元で少ない人数でも優しく見守られて少しずつ成長していくのがいいと思っています。35人学級では、個々の児童に主体的で対話的で深い学びに対応するのは、先生方にとって厳しいと思います。是非、工夫して25人学級を目指して主体的で対話的で深い学びを子供たちに経験してほしいです。中・高と進むにつれて、大きな集団で、もまれるようになっていきます。小さな学校でも、縦割り学習・体験で同学年ではない子供同士の関わりができたり、ICTを利用して違った見方・考えを手に入れられたりもできると思います。

⑤地域の子供と大人のつながりを大切にしていってほしいです。

(公開する時は、全体の意向を掴んで出してください。部分取りの無いようにお願いします。)